



今回は「二次障害」についてふれていきます。

これまでの「ぷれジョブ」でも何度かでてきました「二次障害」とは、何かにチャレンジする前から「自分はダメだ」「どーせやってもできない」と意欲を失っている心の状態をいいます。

コミュニケーションの取りにくさ、こだわり、過敏さや感じにくさなど、障がいの特徴から人との関係づくりの難しさ、学習の困難さなどが生じ、そのために「うまくいかない」という失敗や挫折が積み重なり、元々の障がい以上に日常生活を難しくしてしまうような「二次的」な状態なのです。行動面ではイヤなことから逃げようとしたり、ひきこもったり、逆に攻撃的・反抗的になったり暴力的になることもあります。心は見えないから

当然ですが、周りで関わる人は、その「行動を励ましたり怒ったりして何とかしよう」とします。

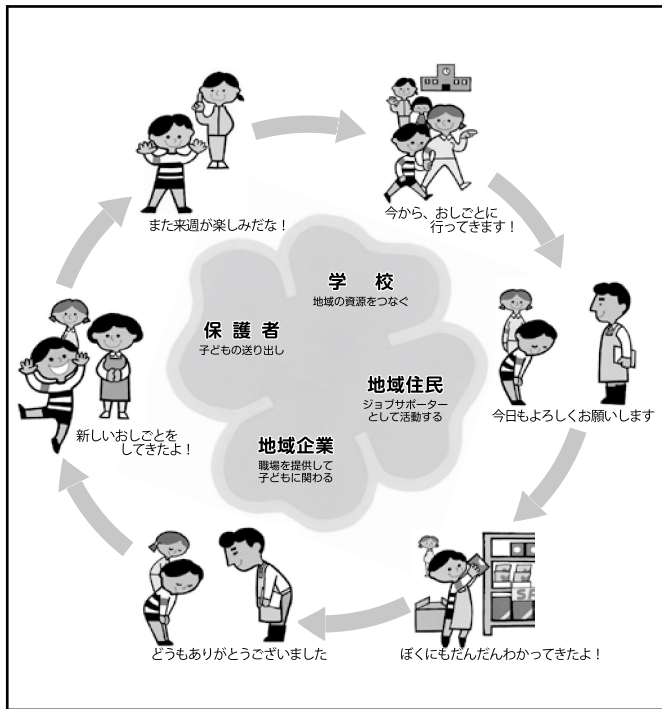
でも本当につらいのは、無力感やつよい被害感、つらみやねたみのようなイライラを感じ、「どうしたらうまくいくのか」と悩み、いろいろなことが不確実なまま生きにくさを抱えた本人達なのです。個人差はありますが、思春期くらいに顕著になってくることが多いようです。

こういった状態をつくらなために大切なことは、「認められる」「わかってもらう」という体験をすることです。自分にもできる、わからなかったら聞ける、ゆっくりやっても大丈夫だった、間違えても丁寧に教えてもらえる、など理解して関わってくれる人や仲間、機会があるといいのです。これによって全てが解決するわけではありませんが、ちよつとしたチャンスや出会いで一人でも多くの障がいをもち子どもたちが認められる体験を積み重ねて、その子らしさを育てていけるといいですね。

## ぷれジョブ in さく 連絡協議会のご紹介

ぷれジョブとは、特別な支援が必要な子どもたちが、「ジョブサポーター」と呼ばれる地域ボランティアと一緒に、地域の企業で「週に1回・1時間」の仕事を半年間続ける活動です。

この活動は就労そのものが目的ではなく、地域住民が障がいのある子どもへの理解を深めることを目的としています。社会参加の場を提供するという立場で受け入れ企業と



してぷれジョブに参加する、家庭や学校から離れた場での活動を見守る立場でジョブサポーターとして参加する、など保護者や子どもたちが積極的に社会に関わるきっかけをつくり、利益によらないこの活動を通して、子どもたちを中心に、保護者・学校・地域住民・企業等が出会い、地域に温かい人のつながりが生まれます。

町で誰かの役に立ちたいのです」をコンセプトに、今年4月に「ぷれジョブ in さく」連絡協議会が立ちあがり、浅間地区・野沢地区・小諸市北大井地区での活動開始に続き、軽井沢でも9月から「ぷれジョブ 軽井沢」として第一号の活動がはじまりました。

障がいのある子どもは「ご支援を受けること」が多いのですが、自分たちのできることで「何か」社会参加をしたいと思っています。そして「家族以外の人」社会に認められる経験や体験をすることによって、自信や誇りを得ることができ、「何かをする」生きている「こと」につながっていくのです。

ぷれジョブの活動がこの軽井沢町でもひろがり、多くの方の温かい笑顔が広がると思います。

※対象は小5～中3の児童・生徒

【問い合わせ】  
ぷれジョブ in さく 連絡協議会  
〒385-0022  
長野県佐久市岩村田1880-4  
佐久圏域障害者就業・生活支援センターほーぷ内  
☎0267-66-3563  
<http://purejob-saku.com/index.html>